

BOOK

本

街の本屋さんが「今月推したい1冊」をご紹介します。

はわが人生の「師」なり

— 血の通った営み「小商い」という考え方 —



小商いのすすめ

「経済成長」から「縮小均衡」の時代へ

著者：平川 克美
出版社：ミシマ社
定価：1,600円＋税

「小商い」とは、自分の手の届く距離、目で見える範囲、体温の感じる圏域でビジネスをしていくこと。存続し続けることが、拡大することに優先するような商いのことだそうです。

さまざまな成長戦略を打つこともいいけれど、人口が減少していく中では無理が生じてくる可能性も高くなるのではないのでしょうか。そこで本書では「小商い」を提案しています。小規模ビジネスの指南本ではありません。活気があった昭和30年代頃を振り返りながら、その頃の血の通った営み「小商い」という発想や考え方を啓蒙しています。

「製品のひとつひとつを大切に誠意を込めて作り出す生産ライン。それらを顧客に届けて、信頼と満足をついにバックさせるシステム。拡大よりは継続を、短期的な利益よりは現場のひとりひとりが労働の意味や喜びを噛み締めることのできる職場をつくること。それが生きる誇りに繋がること。ちいさな革命が労働の現場で日々起きているような会社」(本書より)。

こちらで一旦立ち止まり、自分たちが求めてきたものが何であったのかを考えてみよう。その答えの一つに「小商い」があると平川さんは教えてくれています。

今月の推薦者



久住書房
代表取締役社長
久住 邦晴 さん

今こんな本が売られています

久住書房 大谷地店
売上ランキング
(期間:11月1日~11月30日)

総合 売上ベスト5

1位	かんたんがおいしい! / 足立 洋子 (新潮社)
2位	人間にとって成熟とは何か / 曾野 綾子 (幻冬舎)
3位	長生きしたけりゃふくらはぎをもみなさい / 鬼木 豊・監修 (アスコム)
4位	北海道に僕が残したいもの / 稲葉 篤紀 (宝島社)
5位	祈りの幕が下りる時 / 東野 圭吾 (講談社)

CINEMA

抱きしめたい-真実の物語-

2月1日(土)から公開
ユナイテッド・シネマ札幌

この幸せは、永遠だと思っていたー

壮絶な交通事故から奇跡的に生還。左半身と記憶能力に障害がありながらも常に前向きに生きるつかさ。そんな彼女と恋に落ち、一生の愛を誓ったタクシードライバーの雅己。身体的なハンデ、周囲の冷たい視線、家族からの反対…多くの障壁を乗り越えて結ばれたふたり。しかし運命は、幸せ絶頂の2人に、非情過ぎる試練を用意していたー。

チケットプレゼント

ご招待券を4名様にプレゼント。
80頁のアンケートにご記入の上、ご応募ください。